

海の恵み調理で感じて

ドキドキアジ三枚おろし

短大生 県立大 プロに教わり慎重に

松江



講師の石田周三さん（左）から指導を受け、アジをさばる学生

普段、魚に触れることが少ない若い世代に、魚に触れ、海の恵みを感じてもらおうイベントが4日、松江市浜乃木7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスであった。参加した学生は魚の調理実習を通じ、貴重な水産資源を生み出す海の大切さに理解を深めた。（古瀬弘治）

美しい海を未来へ引き継ごうと、日本財団（東京都）が料理人をつくる日本さ

はけるプロジェクト実行委員会（服部幸慶委員長）と共に全国で取り組む「海と日本プロジェクト」の一環で企画した。

雲南市木次町寺領で弁当の仕出し業などを行う「坂根出店」の石田周三さん（61）を講師に招き、健康栄養学科と総合文化学科の女子学生19人が参加した。

学生は出刃包丁を使ってアジを三枚におろし、和風マリネを作った。石田さんは「アジは身が柔らかいので、骨に沿うように包丁を使うとうまくいく」「内臓を取り除く時には、指の腹ではなく爪でかき出して」などと指導した。

魚をさばるのは初めてで、最初はぎこちなかった学生も、助言を受けながら徐々に手際が良くなっていった。

総合文化学科2年の津和美穂さん（20）は「魚をさばるのは小学生以来で、包丁の使い方が難しかった。今回学んだことを家庭でも生かしたい」と話した。



金賞作品を紹介する福井一尊
准教授

服部さん(出雲)最優秀賞

絵画や陶芸
480点応募
障がい者アート作品展
美 県

松江

県内の障害者が制作した
芸術作品を集めた「県障がい者アート作品展」(8月10日)を前に6日、会場となる松江市袖師町の県立美術館で作品の審査会があっ

た。絵画や陶芸など480点の応募があり、庄野雄二さん(43) || 益田市 || のイラスト「ファンタジー」と、服部祐二さん(43) || 出雲市 || のオブジェ「震災後の東日本」が最優秀の金賞に輝いた。

既成概念にとらわれない障害者アートは、欧州では一つのジャンルとして確立されている。作品展は障害者に対する理解を深めてもらおうと、県と県社会福祉協議会が毎年開いており、

県立大短期大学の福井一尊准教授(美術教育学)ら4人が審査した。

庄野さんの作品は主に蛍光ペンを使い、はがきサイ

ズの画用紙39枚に建物や風景を色鮮やかに表現。服部さんは、東日本大震災の復旧作業の様子などを木で作った。福井准教授は「庄野さんの作品は、蛍光ペンを使う発想が素晴らしく、思いが真っすぐに伝わる。服部さんの作品はテーマに社会性があり、芸術的な訴求力もある」と講評した。

このほか銀賞3点、銅賞5点などが選ばれた。作品展は入場無料。

(曾田元気)